

### 第3回 高千穂中学校移転新築検討委員会会議録 (要旨)

日時：令和5年11月22日(水) 午後3時00分 開会

場所：高千穂町役場 4階 大会議室

委員：出席者12名(うち代理1名)、欠席者3名

|       |   |
|-------|---|
| 出席者   | 富高康雄委員、喜田鉞子委員、甲斐勝朗委員、佐藤さつき委員、板倉哲男委員、佐藤幸男委員、金丸智弘委員、榎本英雄委員、安在優委員、佐藤公彦委員、安在直委員 |
| 代理出席者 | 佐藤健誠氏(富高徹雄委員の代理)  |
| 欠席者   | 甲斐英生委員、甲斐烈委員、佐藤有美委員   |

事務局：出席者7名 オブザーバー：出席者5名

|        |   |
|--------|---|
| 事務局    | 教育委員会：戸敷教育長、林次長、佐藤課長補佐、山口学校教育係長、田尻学校教育係主任主事、建設課：飯干まちづくり推進係長、黒木稜平(建築住宅係)技師 |
| オブザーバー | 有藤総務課長、興梠財政課長、戸高総合政策課長、甲斐建設課長、佐藤農林振興課長                                    |

#### 1. 開会 【進行：佐藤課長補佐(委員長挨拶、教育長挨拶まで)】

#### 2. 委員長あいさつ

・第3回検討員会への出會、また、候補地評価シートの提出に感謝する。シートの集計結果等の説明は後程、事務局から行われるが、候補地選定の判断材料の一つとなる。本日の協議をお願いする。

#### 3. 教育長あいさつ

・第2回検討委員会では、候補地について、意見を頂いた。次長から説明があるが、委員それぞれの組織の代表として、色々な意見を集約して回答頂いたことと思う。毎回この会議で申し上げているが、単なる学校の移転ではなく、将来的なまちづくりを視野に入れて、30年40年先をイメージして、新しい移転先を決定したい。場所が決定したら、今後は、建設内容について相談をすることになると思う。スケジュールまだ決まっていないが、今の小学校低学年の子ども達が入学するイメージを私は持っている。色々な方面からご意見を頂き、現時点でのベストな結論に近づけられるよう、よろしく願います。

#### 4. 協議事項 【進行：富高委員長】

(1) 移転先候補地評価シートの集計結果について〔資料1〕【説明：林次長】

・資料1に沿って説明。

・候補地として相応しいと考える順番結果は、高千穂温泉跡地を13人が、高千穂小学校跡地を1人、総合公園内を1人が1位とした。2位とした結果は、高千穂温泉跡地を選んだ委

- 員が2人、高千穂小学校隣接地が2人、総合公園内が9人、折原グラウンドが2人だった。
- ・「立地環境」、「コスト面」、「通学環境」、「その他」の項目ごとの集計結果は、「立地環境」、「通学環境」、「その他」で高千穂温泉跡地が1番点数が高かった。「コスト面」では総合公園内が1番点数が高かった。

≪質疑なし≫

(2) 移転先候補地の選定について

【会議発言内容】

| 発言者     | 内容  |
|---------|---|
| 富高委員長   | ・高千穂温泉跡地が集計結果では、ダントツだが。高千穂温泉跡地で良いのか、どうか。  |
| 委員      | ・異議なし。  |
| 富高委員長   | ・候補地は、高千穂温泉跡地を選定する。   |
| 事務局 次長  | ・候補地を選定頂いた。候補地の選定について、委員長名で町長に文書で報告する。  |
| 事務局 教育長 | ・候補地選定にお礼申し上げる。各団体でまとめて頂いた意見が結果に表れたと思う。理想は、高千穂小学校隣接地だったが、埋蔵物調査が非常にネックだった。総合点数では、総合公園も高かったが、不審者対応を考えると、学校の管理が難しい。結果は、高千穂温泉跡地となったが、それぞれの組織で質問等があれば、そのように、答えて頂きたい。 |

(3) 基本計画（案）の概要について〔資料2〕【説明：林次長】

- ・資料2に沿って説明。
- ・「基本計画策定の背景・目的」、「高千穂中学校の現状」、「児童生徒数の現状及び将来推計」、「上位計画・関連計画等」、「学校施設の目指すべき姿」、「移転先候補地の概要及び選定結果」、「施設基本計画」、「建設スケジュール」を掲載する。計画案は、1月検討委員会の2週間前までには、委員各位へ郵送する。

【会議発言内容】

| 発言者   | 内容  |
|-------|---|
| 富高委員長 | ・意見が出ないようだが、何かあれば、1月下旬の第4回開催までに、事務局へ意見を頂くようお願いする。 |

(4) 建設スケジュール（案）について〔資料3〕【説明：林次長】

- ・資料3に沿って説明。
- ・検討委員会での基本計画策定・移転新築用地の選定・その他移転新築に関し必要な事項に関する検討及び報告を今年度3月まで。用地交渉・法規制調査・手続等の準備期間1年。施設設計期間を1年半から2年。建設工事を2年。完成・新校舎使用開始まで4～5年を見込む。新校舎への移転は夏休み期間中が望ましいと考えている。

【会議発言内容】

| 発言者            | 内容  |
|----------------|---|
| 富高委員長          | ・結構時間を要する。町民としては、出来るだけ早くというところだろうが。慎重にスピードをもって取り組んで頂きたい。  |
| 板倉委員           | ・検討委員会として、移転先候補地と基本計画を3月末までに報告するということだが、町長が最終決定するタイミングはいつか。                                       |
| オブザーバー<br>総務課長 | ・新年度予算に関係する。新年度予算は、3月定例議会で議決をする。3月議会開催の前には、検討委員会の5回目を開催し、最終報告を頂く必要がある。3月議会までに町長が決定し、新年度予算に計上をしたい。 |
| 事務局 次長         | ・1月下旬に第4回、2月中に第5回を開催し、2月下旬には町長へ報告する。  |
| 板倉委員           | ・スケジュールは、令和6年から1年間の準備期間、令和7年度からが施設設計ということか。並行して進められる部分があるのでは。できれば、並行して早く進めて頂きたい。                  |
| 事務局 次長         | ・同時並行できれば、令和7年度より早く進めていく。   |
| 富高委員長          | ・並行してできる事は同時に進めて頂くようお願いする。  |

(5) その他について

5. 【会議発言内容】

| 発言者  | 内容                                       |
|------|--|
| 板倉委員 | ・検討員会は、基本計画策定までか。具体的なデザインなどは、行政で進めていくのか。 |

|         |  |
|---------|--|
| 事務局 次長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・早く進めるために、関係課で協議をしながら行政で進めていく。</li> </ul>   |
| 事務局 教育長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回目に配った児童生徒数の資料で、5年後令和10年の生徒数は255人で今と変わらない。さらにその5年後も216人なので、本年度と比べて40人減。しかし、その2年後、令和17年は171人と急激に減る予測。今から12年先は中学生が100人減る。そういうことも基本設計に入れる必要がある。</li> <li>・今、文科省からは、小学5年生から教科担任制を積極的に取り入れるよう言われている。中学校は、教科担任制になるが、小学5年生から教科担任制を可能な限り取り入れるとすると、6・3年制ではなく、4・5年制にすべきと考える。教科担任制を導入するならば、実質小学5年生から中学生と同じ扱いをするということ。しかし、施設面考えると、5年生から中学校へ通えるキャパがない。校舎が受け入れられなければ、一つの方法として、今、進められている「義務教育学校」がある。小中学校を一つにして、5年生から教科担任制を取り入れことで、4・5制ができる。さらに、後半の5年部分は、3年間と2年間に分け、前期・中期・後期のカテゴリーでずっと進んでいく。であれば、高千穂小・高千穂中は、できるだけ近くにあった方が、将来的なものに対応しやすいこともあり、小学校隣接地が理想的であった。結果にもあったが、発掘調査や年数、費用がかかるということで、今回は、高千穂温泉跡地を最終選定して頂いた。</li> <li>・40年後は、高千穂小学校が築50年になり老朽化。そのときは、「義務教育学校」を考えていった方が良い。高千穂小学校が、今回、建設する高千穂中学校に移転するというイメージを持っておく必要がある。</li> <li>・先月、上野に来ていただいた水永さんが、新聞で「人口減少は予測ではなくて現実」と書かれていた。急カーブで子どもの数が減ってくる現実を、私らは認識をして、この計画を進めていく必要がある。30年40年先をしっかりと見通して、この基本計画を策定したい。</li> <li>・せっかくの機会なので、日頃の情報を話したが、今のことに関して何か質問があればお願いしたい。</li> </ul> |
| 佐藤さつき委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「義務教育学校」のメリットは何か。教科担任制ということは、先生方の学校間の移動などがあるのか。近くにあった方が良いメリットとは。</li> </ul>  |
| 事務局 教育長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・上野小中学校が同じ建物の中あり、先生方は中学校から小学校に行く場面がある。最大のメリットはそこ。5年生から教科担任制にと文科省が言っているということは、6・3年制は崩れている。ただ建物の関係で、4・5年制は全国一斉にはできない。だから、人口減少で児童数、生</li> </ul>  |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>徒数が減ったところから、次々「義務教育学校」になっている。その中身は、4・5年制の形、だから、できるだけ近い方がいい。日向市の大王谷学園は、小学校と中学校が上と下であり、何百段もある「学びの架け橋」という名の階段を、先生方は、行ったり来たりして、大変と聞く。30年から40年先、を見通したときに、高千穂もそうなるので、今から予定する建設用地の利用の仕方は、いずれ高千穂小がここに来ることを想定しておく必要があると考える。</p> |
|--|---|

## 6. 閉会

- ・午後3時45分 閉会